

令和3年6月30日
愛媛大学

産学官連携河内晩柑製品の発表 — 学生参加による地域連携製品の開発 —

このたび、愛南町との共同により、愛媛大学農学部及び大学院農学研究科の学生35人が、河内晩柑を活用した5製品を開発しました。

河内晩柑は、愛媛県特産の柑橘で、特に愛南町を中心とした南予地方で栽培されています。果皮には認知機能改善効果が報告されているオーラプテンや抗アレルギー効果があるノビレチンなどの保健機能成分を豊富に含んでおり、健康効果のある柑橘として注目を集めています。

河内晩柑の味や香りなどの特徴を知ってもらうことを目的として、「大学生が好む河内晩柑製品」をコンセプトに、学生が中心となって製品企画を立案し、事業者との連携により5つの製品の開発に成功しました。7月12日(月)の愛媛大学生協ショップで販売開始を前に、記者説明会を開催いたします。

記者説明会当日は、お越しいただいた皆様のための試食もご用意いたしておりますので、この機会に、ぜひお試しください。

つきましては、下記のとおり記者説明会を実施しますので、是非取材くださいますよう、お願いいたします。

記

日 時：令和3年7月11日（日）13時00分～

場 所：愛媛大学農学部 3階 多目的ホール（松山市樽味3丁目5-7）

会 見 者：愛媛大学長 ^{にしな ひろしげ} 仁科 弘重

愛媛大学大学院農学研究科附属食品健康科学研究センター長 ^{すがはら たくや} 菅原 卓也

愛南町長 ^{しみず まさふみ} 清水 雅文

陪 席 者：愛媛大学理事・副学長兼社会連携推進機構長 ^{わかばやし よしかず} 若林 良和

愛媛大学大学院農学研究科長 ^{やまうち さとし} 山内 聡

愛南町農林課長 ^{よしむら かつみ} 吉村 克己

愛南町農業支援センター ^{なかもと たけひと} 中本 健仁

<お願い>

事前に取材の参加者数を把握するため、取材に来られる場合は、7月8日（木）までに下記担当までご一報くださいますようお願いいたします。

※送付資料2枚（本紙を含む）

本件に関する問い合わせ先

農学研究科附属食品健康科学研究センター
センター長・教授 菅原卓也

TEL：089-946-9863

Mail：sugahara.takuya.mz@ehime-u.ac.jp

(河内晩柑製品開発プロジェクトの概要)

1. 目的

愛南町との共同研究「大学生が好む、河内晩柑を使った加工品開発のための調査研究」及び令和2年度愛媛大学地域志向教育研究支援事業「愛南町との協働による河内晩柑果皮の機能性評価と機能性食品開発」により、今後の消費の中心を担う大学生をターゲットとして河内晩柑の認知度向上と河内晩柑の味・特徴・機能性などの理解促進を目指して、農学部及び農学研究科の学生が主導となって“大学生が好む”河内晩柑製品を開発し、愛媛大学生協ショップで販売する。

2. プロジェクトの進行

(1) 学生の募集

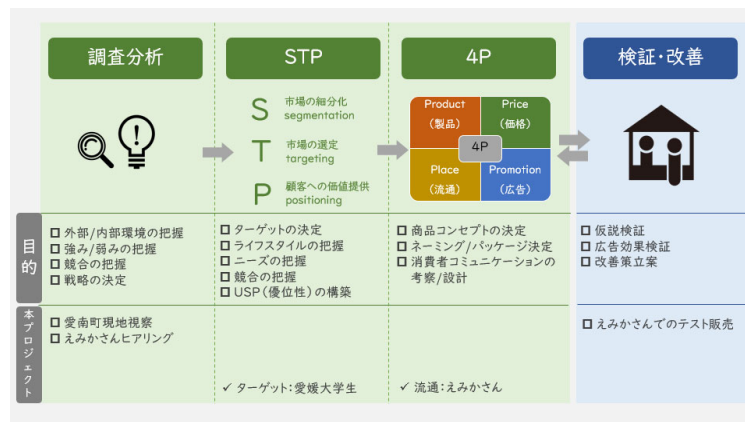
学部2年生24人、3年生6人、4年生3人、修士1年生2人(学年は令和2年4月現在)の計35人が参加した。男女の内訳は、男性9人、女性26人であった。

(2) 現地視察

多くの学生が河内晩柑を知らなかったため、プロジェクト開始にあたり令和2年7月5日(日)に愛南町に赴き、河内晩柑の園地視察、収穫体験、搾汁体験等を行い、河内晩柑の味や特徴を知る機会を設けるとともに、開発製品のイメージ創りを行った。

(3) ワークショップ

5グループに分かれ、大学生ならではの「シーン」を切り口に全3回のワークショップにて市場調査や市場セグメント、ターゲティング、競合調査、USPの設定などを行い、開発製品のコンセプトメイクを行った。



(4) 事業者様向けプレゼンテーション

令和2年12月27日(日)、各グループが考えた製品コンセプトを協力いただける事業者様にプレゼンテーションし、製品化に着手した。

(5) 製品のブラッシュアップ

グループごとに事業者様と打ち合わせや試作を重ね、開発製品の味や容量、包装形態、パッケージデザイン、ネーミングなどをブラッシュアップし、製品化した。

3. 今後について

開発製品を愛媛大学生協ショップで販売していただき、主要な購買ターゲットである大学生の反応を検証することでさらなる製品の改善につなげるとともに、生協ショップでの常時販売化や愛南町での活用の可能性などを探る。